秋田魁新報　2026年10月04日付　県央

本県沖の潮流発電探る

県内高校生

男鹿で研究成果を発表

潮の流れを使った「潮流発電」の調査研究に取り組む県内の高校生が、男鹿市船川港のTENOHA（テノハ）男鹿で研究成果を発表した。メンバーは、本県沖での潮流発電事業の実現可能性や活用策について語った。



潮流発電の研究について発表する高校生

研究チームに参画しているのは、男鹿海洋、男鹿工業、能代の3校計15人。再生可能エネルギーに注目が集まる中、身近にありながらまだ十分に利用されていない自然エネルギーについて知るとともに、その活用を呼びかける狙いがある。

9月27日の発表には調査メンバーの高校生5人が出席。昨年度に男鹿市沖で実施した流速測定について、速い時で毎秒0・4㍍だったと報告した。「洋上風力発電の風車下ではさらに流速が速くなるとされる。長崎大では低速潮流でも発電できる水車の開発が進められており、発電に期待ができる」と述べた。

潮流発電の活用策としては▽風力発電設備の始動用電力として利用▽故障した同設備への一時的な送電▽海洋観測用モニターへの利用―をイメージしているとした。

長崎県の五島列島で行われた過去の実証事業や長崎大の潮流調査にも触れ、満潮や干潮の時間帯と潮流が速くなるタイミングの関係性を学んだことも伝えた。メンバーは最後に「脱炭素化を進めるため、再生可能エネルギーへの転換は大事。自分たちの研究がそのような呼びかけの一石になればうれしい」と語った。

（阿部拓郎）

ⓒ秋田魁新報社